八尾駅 Historic Site Map 史跡マップ

聖徳太子と八尾

聖徳太子は用明天皇を父にもち、厩戸皇子と呼ばれていました。推古天皇の摂政として冠位十二階、十七条憲法を制定し、また仏教興隆にも尽力しました。奈良時代には聖人化されて信仰の対象となり、超人的な伝説に彩られています。

八尾の地には、仏教の受け入れに反対した物部守屋の家があり、稲城を築いて応戦する守屋に聖徳太子と蘇我馬子が勝利をおさめました。その後、太子と馬子は四天王寺と法興寺（飛鳥寺）を建立しました。

このように八尾は、日本における仏教の導入を決定づけた場所であるといえます。

聖徳太子

仏教をめぐる争い

物部氏は、軍事とともに神事にも重要な役割を果たしていたことから物部守屋は、仏教の受入れに反対していました。しかし、群臣の多くは賛成派の蘇我馬子についてしまいます。この背景には勢力争いもあり、用明天皇の次の天皇に穴穂部皇子を推す守屋に対し、馬子は炊屋姫尊（後の推古天皇）を皇位につけようと考え、守屋を滅ぼすことを決めます。

587年、守屋は河内の渋川にある家に稲城を築き、聖徳太子とともに攻める馬子に対し、榎木に登り矢を射ました。その勢いに馬子の軍は退却しますが、聖徳太子は四天王像をつくって祈願し、ついに迹見首赤檮が守屋を射落として勝利します。

物部守屋

【八尾駅からの距離の目安】

大聖勝軍寺まで	約１．１km
真観寺まで	約２．０km
稲城址まで	約２．６km
由義寺跡まで	約２．９km

弓削道鏡

弓削道鏡は、現在の八尾市域の出身と考えられています。梵語に秀でており、葛城山で修行したと伝えられますが、詳しいことはわかっていません。聖武天皇の娘である孝謙上皇の病気を治したことで信頼され、のちに法王に任じられました。

孝謙上皇は、重祚して称徳天皇となり、道鏡とともに仏教を中心とした政治を行いますが、769年には宇佐八幡宮（大分県宇佐市）より、道鏡を皇位につけると天下が治まるとの神託がありました。和気清麻呂が宇佐に赴き、改めて神託を聞き、道鏡が皇位につくことはありませんでしたが、この事件は歴史の大きな謎となっています。

770年に称徳天皇が亡くなると道鏡は、下野薬師寺（栃木県下野市）の別当を命じられ、その2年後に亡くなりました。

弓削道鏡

ゆげでらあと 国史跡 由義寺跡

769年、称徳天皇は、弓削の地に造営を進めていた由義宮を西京とします。翌年には西京のシンボルとなる由義寺の塔の建設にかかわっている人々に対し、位階を与えています。しかし、天皇が亡くなると西京は廃止され、由義寺の場所も忘れ去られました。

2017年、発掘調査で１辺約２０mの塔基壇が見つかり、東大寺や大安寺に次ぐ規模から七重塔であったと推定され、由義寺の塔基壇とわかりました。そのため、2018年２月に国史跡に指定されました。

安中新田会所跡 旧植田家住宅

植田家住宅は、1704年の旧大和川付替えにより開発された安中新田の会所を継承した建物です。会所は、小作料の徴収、道や水路の維持管理を行う施設で、主屋の柱や梁の一部は当時の姿を留めています。

府内にあった新田会所の多くは失われており、本施設は貴重な歴史資産として市指定文化財になっています。

寄贈　八尾菊花ライオンズクラブ　令和３年（2021年）６月